

基礎演習概要（コース）

コース 番号	2	コース名	医療福祉コース	コース定員	150 名
-----------	---	------	---------	-------	-------

1. キーワード

医療ソーシャルワーク（MSW）、精神保健福祉（PSW）、多職種連携、リハビリテーション、ケアマネジメント、医療制度・政策、地域保健

2. 基礎演習の狙い

医療福祉コースの基礎演習では、保健・医療と社会福祉をつなぐ基礎的な視点と実践的に動く力を身につけるため、以下の3つを重視して実施します。

- ① 患者・家族（当事者）を理解する
- ② 医療職を中心に、福祉職が連携する他職種を理解する
- ③ 様々な福祉領域と保健・医療との関連を考察する

3. 社会福祉基礎演習コース共通要素

医療福祉コースの基礎演習では、上記の狙いを達成するため、以下の要素を共通して取り入れて実施します。

- ① 患者会・家族会等の当事者組織を訪問（見学）し、患者・家族の声を聴く
- ② 医師・看護師・作業療法士（OT）・理学療法士（PT）・言語聴覚士（ST）等の資格を持って現場で働く専門職の方々の話を聴く（「連携・チームワーク」をキーワードとした「多職種シンポジウム」の開催）
- ③ 広い意味での「社会問題の現れている現場」でフィールドワークを体験する
- ④ 報告会を開催し、学習成果を発表する

4. 所属ゼミ決定方法

所属ゼミの決定方法については、コース所属決定時に、あらためて決定方法を案内します。

コースからのメッセージ

傷病がもたらす生活問題は多岐に渡ります。傷病によって職を失えば、経済的問題に加えて自己実現に関わる悩みも生じます。また、精神障害や内部障害のように、傷病と障害が一体となって「生活のしづらさ」に結びつくこともあります。介護問題が発生することもあるでしょう。病気や障害があることで地域の中で孤立してしまう人もいます。時には、患者として、あるいは生活者としての権利を侵害されたりうまく行使できなくなるなど、「人権」にかかわる問題に直面する人もいます。家族内の役割を変えずにはならなくなったり、それにとともなって家族関係も変化するかもしれません。また、医療は人の出生前から最期に至るまで、人生の様々な場面と関わっています。医療福祉の現場には、乳幼児から高齢者まで様々な年代の人が訪れてきます。「高齢者福祉」「障害者福祉」「児童福祉」「地域福祉」「低所得者福祉」「家族福祉」といった多様な領域すべてに関わるのが「医療福祉」なのです。「医療福祉」というと特殊な狭い領域に思われがちですが、実は広い視野と総合的な実践力が求められる、「福祉の醍醐味」を感じることでできる領域です。医療福祉コースの基礎演習は、その領域に足を踏み入れる「第一歩」となるでしょう。